

令和4年11月30日

富良野市議会議長 黒岩岳雄様

富良野市議会議員 石上孝雄
外6名

議員の派遣に関する報告書

このたび議員派遣の承認を受け、その結果を下記のとおり報告します。

記

- 1 道北支部議長会議員研修会
 - (1) 目的 議会活性化及び議員の資質向上に資するため
 - (2) 派遣場所 旭川市
 - (3) 期間 令和4年10月26日
 - (4) 派遣議員 富良野市議会議員10名
 - (5) 派遣内容 別紙のとおり

1. 派遣内容

道北支部議長会議員研修会

講演Ⅰ ・演題 道北はコロナ禍をチャンスにできるか

・講師 株式会社日本総合研究所調査部

主席研究員 藻谷 浩介 氏

講演Ⅱ ・演題 北海道の防災教育、被災者支援の充実に向けて

・講師 東北大学災害科学国際研究所助教 定池 祐季 氏

2. 所 感

講演Ⅰでは、国内全体が幕末ともいえる雰囲気であり、それぞれの身分＝役割を世襲することだけに尽力しており、役割の範疇だけで業務を行っているほか、噂や雰囲気だけで論陣をはり、事実を捉える、数字を確認することの努力を怠っているとの指摘が印象に残った。

国のコロナ対策、産業別の売上げの推移、貿易収支やGDPの推移、国際情勢を例に挙げ、北海道、特に道北の経済自立に向けたビジョンの提言を受け、イタリアやスイスのようにパスタやオリーブオイル、観光業などで対日本との貿易黒字を出しているように、観光、農産物、手作り工芸品などに力を入れるべきとの提言であった。

また、少子高齢化は、高齢化率の進展はみられるものの小規模自治体においては高齢者の減少局面であるとの指摘を受け、中央などに任せず、自らが考え行動すべきとの指摘は今後における大きな参考となった。

また、講演Ⅱで、防災教育は、災害時に自らのいのちを守る、平時の防災・減災活動に資する、災害時に周りのいのちを助け、復興に資する人になるとしたことを目指す教育であるとされ、被災地においては被災経験を踏まえた心のケアや教訓を学ぶ、被災地以外の地域では、災害に遭ったときの対応を学ぶとした防災教育の違い、地域資源を活かした防災教育などの講演のほか、胆振東部地震における被災した子どもたちを支える仕組みが紹介され、心のサポート、防災教育や学習に関する研修、支援が行われた例、被災者支援の例として、2年の仮設住宅入居期限の満了前に情報発信と支援体制を整え、個別の意向に寄り添うなどの事例が紹介された。

被災者支援の充実については、災害の時間軸（フェーズ）により、ニーズの変化に伴う部署や業務内容の変化、潜在化・顕在化していくニーズが入り混じるので、目配りと気配りが不可欠であること、また、観点として命と尊厳を守る取組が行われていたかが、重要であると感じたところである。